京都市動物園におけるキリンの母子およびきょうだい関係

川北　安奈

【目的】本研究は、母やきょうだいの存在が飼育下の幼いキリン（*Giraffa camelopardalis*）の行動や社会関係に与える影響を検討することを目的とした。具体的には、(1) 母の出産に伴い、誕生直後の 0 歳齢のオスと母との間に安定した関係を形成するために 2 歳齢のメスの子が母と別の場所で数週間飼育されたとき、2 歳齢のメスの子はどのような行動を行うのか、(2) 再び母と同居し、同時に 0 歳齢のオスがいるとき、そのメスの子はどのような行動を行うのか、(3) 0 歳齢のオスの誕生後に、そのメスの子は母や 0 歳齢のオスのきょうだいとどのような関係を築くのか、の 3 点であった。

【方法】京都市動物園で飼育されているキリンの父（13 歳齢）、母（12 歳齢）、第 3 子（2 歳齢、メス）、第 4 子（0 歳齢、オス）を対象に、1 回 20 分間の個体追跡法を用いて観察した。観察は 2013 年 5 月 2 日から 2014 年 11 月 26 日までの期間に行い、総観察日数は 82 日間、総観察時間は 329.3 時間であった。第 3 子と第 4 子は観察対象の父母の子であり、第 4 子は 2013 年 5 月 15 日に誕生した。野生下のキリンの観察で、子の生後数週間は母子のみで過ごし、その後に他の母子で構成されるグループに入るという記述があるため（Langman, 1977）、第 4 子誕生後の数週間は、母と第 4 子がその他の個体とは別の場所で飼育された。

【結果と考察】(1) 第 3 子は、母と別の場所で飼育されていたときには同じ場所で飼育されていたときと比べて、移動や首を反らす行動を頻繁に行い、横になる行動や反芻をする割合が少なかった。移動は特に、同じ場所を繰り返し歩く往復歩行がよく見られた。往復歩行と首を反らす行動は、キリンの心理的ストレスの指標とされる。反芻は、リラックスしていないときには抑制される。これらのことから、第 3 子は母と別の場所で飼育されていたときには心理的ストレスを受け、リラックスしていなかったと考えられる。また、母と別の場所で飼育されていたときであっても、母の姿がより見えやすい状況では第 3 子の心理的ストレスが低く、リラックスしていた可能性が示唆された。そして、母と別の場所で飼育されていた期間を含む前後 3 ヵ月間で第 3 子の体重が減少したことから、母と別の場所で飼育されることが第 3 子に与えた影響は大きかったと推察された。

(2) 第 3 子はすでに離乳をしていたが、再び母と同居して、同時に新たに誕生したきょうだいがいる状況では、母が第 4 子に対して授乳を行う際に、第 3 子が母と第 4 子に接近したり、母の乳首を含み母乳を飲もうと試みたりする行動が観察された。第 3 子のそれらの行動によって終了した第 4 子への授乳の平均継続時間は、母や第 4 子によって終了した授乳と比べて短く、第 3 子による授乳の干渉があったと考えられる。

(3) 個体間距離を調べると、第 3 子と母が近くにいる割合は、第 4 子誕生後は第 4 子誕生前よりも低かった。そして、第 3 子と第 4 子ともに、母子間よりもきょうだい間の方が近くにいる割合が高かった。したがって、第 3 子と第 4 子のきょうだい関係が新たに築かれたことで、第 3 子と母の結びつきは弱まったと考えられる。

以上より、飼育下の幼いキリンの行動や社会関係は、母やきょうだいの存在によって変化すると考えられる。国内で幼いキリンが複数頭飼育されている動物園は数少ないため、このような一面を示せた点において、本研究には意義があったと言える。（比較行動学）